

5年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標等

タイプ名:	地域環境保全タイプ
目標:	間伐により、下草が生える明るい人工林を取り戻す。 3年後の相対幹距比2.6ポイントアップしSr=15.6とし、風倒木を0本にする。
モニタリング調査方法:	① 木の込み具合調査 (相対幹距比Sr) ④風倒木の本数調査

(\*モニタリング調査のガイドラインP17:人工林での目標設定(参考)を参照)

(\*モニタリング調査のガイドラインP64:相対幹距比(Sr)早見表を参照)

2 活動実施前の標準地の状況 (5年度)

標準地の状況を記載	林内は過密で風倒木等が見られる。 上層木の平均樹高は16m、100㎡当たり立木本数は23本、相対幹距比Sr=13.0。 風倒木は活動対象森林全体で40本。	
-----------	---	---

3 活動計画1年目の標準地の状況 (5年度)

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は20本、相対幹距比Sr=14.0。風倒木は20本処理。	
目標達成度	相対幹距比:38.4% 風倒木処理:50%、	計算式: Srアップ(14-13)÷2.6(ポイントアップ)=38.4% 風倒木処理 20本÷40本=50%
次年度に向けた改善策	引続き安全作業に努め、風倒木処理等と間伐を進める。	・標準地野帳を添付

4 活動計画2年目の標準地の状況 (6年度)

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は18本、相対幹距比Sr=14.7。風倒木は20本処理。	
目標達成度	相対幹距比:65.3% 倒木処理:100%、	計算式: Srアップ(14.7-13.0)÷2.6(ポイントアップ)=65.3% 風倒木処理 (20本+20本)÷40本=100%
次年度に向けた改善策	引続き安全作業に努め、風倒木処理等と間伐を進める。	

5 活動計画3年目の標準地の状況（7年度）

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は16本、相対幹距比Sr=15.6	
目標達成度	相対幹距比:100%	計算式: $Sr_{\text{アップ}}(15.6-13) \div 2.6(\text{ポイントアップ})=100\%$

（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。